

問 自治体 DX への機運醸成を求める。

町長 全庁的に取り組む必要がある。管理職も含めて情報共有や研修会を進めていく。



問 行政サービス DX への町長の思いは。

町長 DX は避けては通れない。IT と人とのサービス提供の役割分担が大事。



専門的な部門を設置していけるよう議論して、町のデジタル化を進める。

問 職員定数の見直しも含めて DX 推進人材を増やし、推進体制を強化せよ。

町長 定数見直しも検討する。DX を進めながら段階的に体制を強化していく。

問 DX 人材の育成環境、採用戦略を整備せよ。

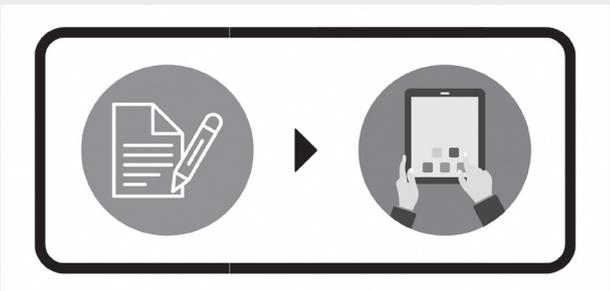
町長 職員の人材育成に努める。採用も調査研究していく。

問 デジタル技術の発展の中で職員に必要な資質能力は何か。

町長 高い倫理観、生命・財産を守る視点を持ち、常に成長しサービスを向上させていくことだ。

問 DX の一環である行政手続きのオンライン化はいつまでに、どう進むか？

町長 子育て、介護に関する 26 手続きを令和 5 年度より開始できるよう進めている。



手書きからタブレット等での入力へ

問 デジタルデバインド^(※) 対策を拡大せよ。

町長 取り組みは必要。研究を進めていく。

(※) デジタルデバインドとは、情報格差のこと。インターネットやコンピュータを使える人と使えない人とで生じる格差。

問 災害時には医薬品の供給体制の確保が必要と考える。那覇市、豊見城市においても事業所等との協定を締結し、体制を確保している。本町も必要ではないか。

町長 医薬品等の確保については、必要と考えている。

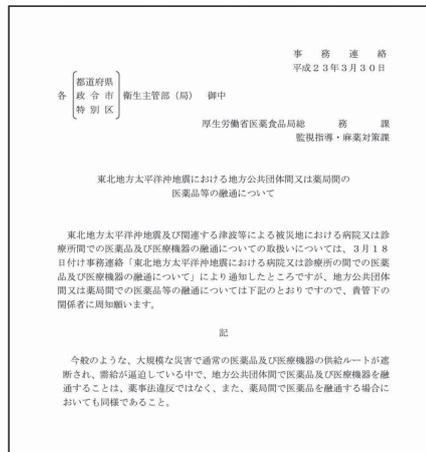


問 東日本大震災の際に様々な教訓があったと聞いている。被災後の避難所生活の際、医薬品の支援要請時と、医薬品の到着時のタイムラグによって、必要な時に必要な薬がなかったという話も聞いている。医薬品等に関する事前の供給体制の確保について取り組んでほしいがどうか。



町長 協定締結に向け進めていく。

町長 協定締結に向け進めていく。



問 災害時には医薬品に限らず、医療資材等においても供給体制の確保が必要と考える。障がいを抱える方々や医療支援が必要な方々が日常的に必要な用具や物品等がない状況は命に関わると考える。ストーマ用装具^(※) や吸引器等の医療資材や医療用品等の供給体制の確保も必要ではないか。

町長 医療資材の確保等についても、協定締結に向け進めていく。

(※) ストーマ用装具とは、人工膀胱や、人工肛門を増設した際、腹部に作られたストーマから排出された排出物や分泌物をためる専用の装具のことです。